7　様式例

（1）個別の教育支援計画

取扱注意

個別の教育支援計画

学校・園名			
（ふりがな） 氏　　名			
私は、個別の教育支援計画の内容を確認しました。			
年度	年度	年度	年度
学年	年	年	年
確 認 日	月　　日	月　　日	月　　日
③保護者印			
②校長印			
①担任印			

取扱注意

個別の教育支援計画

年　月　日 記入者（　　）
年　月　日 記入者（　　）
年　月　日 記入者（　　）

ふりがな 幼児児童生徒氏名		幼児児童生徒住所	〒　－ 電話番号（　）－
生年月日 年齢	年　月　日 歳		
ふりがな 保護者氏名	続柄［　］	保護者住所	〒　－ 電話番号（　）－

福祉	手帳	療育手帳	（判定）（交付年月日）
		身体障害者手帳	（判定）（交付年月日）
		精神障害者保健福祉手帳	（判定）（交付年月日）
	装具等	□眼鏡　□車椅子　□歩行補助つえ　□下肢装具　□補聴器（片耳{右・左}、両耳） □人工内耳（片耳{右・左}、両耳）　□その他（　　）	
医療	服薬	□有（　　） □無	
	アレルギー	□有（　　） □無	
	医療的ケア	□有（　　） □無	
	特記事項		
家族状況	家族構成		
	特記事項		
生育歴			
療育・教育歴			
特記事項			

7
様式例

取扱注意　　幼児児童生徒氏名（　　）

本人の状況	生活実態	
	興味・関心	
	その他	
本人のニーズ		
保護者のニーズ		
学校・園における支援	支援目標	
	主な支援内容	

他の関係機関における支援内容				
家庭生活	地域生活	福祉関係	医療関係	労働関係

評価・改善		
年度	年度	年度

＜次年度の担任等に引き継いだ期日（1年次）＞　　年　　月　　日　次年度担任等（　　）
＜次年度の担任等に引き継いだ期日（2年次）＞　　年　　月　　日　次年度担任等（　　）
＜次年度の担任等に引き継いだ期日（3年次）＞　　年　　月　　日　次年度担任等（　　）

※発達段階や障がいの状態等、個々の実態に応じて項目の追加・修正をしてください。
※定期的に評価し、本人の状況や本人・保護者のニーズ、学校・園や関係機関の支援について修正しましょう。

取扱注意

連携の記録（受診・懇談・会議・相談等）

幼児児童生徒氏名（　　）

開催年月日	構成員（機関名）	主な内容
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	

7
様式例

取扱注意（解説付き）

個別の教育支援計画

★3年間を目安に作成するため、3年ごとに書き込む様式を掲載しています。
★記載内容について、本人・保護者や、校内の特別支援教育の担当者が同意しているという署名及び押印による確認を行いましょう。
★切れ目ない支援のために、次年度の担任等へ確実に引き継ぎましょう。卒業等によって、学校種や学びの場が変わる場合も同様です。
★個人情報が含まれるため、関係機関等との情報共有に当たっては、事前に本人・保護者の同意を得ましょう。
★個別の教育支援計画は、指導要録の指導に関する記録の保存期間を参考に、5年間保存することが文書管理上望ましいと考えられます。学校の設置者である当該市町村（学校組合）教育委員会に、保存方法について確認しておきましょう。

学校・園名			
（ふりがな） 氏　　名			
私は、個別の教育支援計画の内容を確認しました。			
年度	年度	年度	年度
学年	年	年	年
確 認 日	月　　日	月　　日	月　　日
③保護者印			
②校長印			
① 担任印			

取扱注意（解説付き）

個別の教育支援計画

年　月　日 記入者（　　）
年　月　日 記入者（　　）
年　月　日 記入者（　　）

ふりがな 幼児児童生徒氏名		住	
生年月日 年齢	年　月　日 歳		
ふりがな 保護者氏名	続柄［　］	保護	〒　－
福祉	手帳	療育手帳	（判
		身体障害者手帳	（判定
		精神障害者保健福祉手帳	（判定　）
	装具等	□眼鏡　□車椅子　□歩行補助つえ　□下肢装具　□補聴器（片耳{右・左}、両耳） □人工内耳（片耳{右・左}、両耳）　□その他（　　）	
医療	服薬	□有（　　） □無	
	アレルギー	□有（　　） □無	
	医療的ケア	□有（　　） □無	
	特記事項	医師等の指示による日常生活においての配慮事項等を記入します。	
家族状況	家族構成		
	特記事項	家族以外の支援者が、支援する上で知っておいた方がよいことがあれば記入します。	
生育歴		出産時の様子や子育てで気になった点（運動・言語・対人関係等）などを母子手帳などの記録をもとに記入します。1歳半健診、3歳児健診、5歳児健診の様子も含めて記入します。	
療育・教育歴		今までの病院の受診歴、教育相談歴、発達検査等を受けている場合はその結果、センター的機能や通級の活用状況　等	
特記事項		療育手帳等を持っている場合は、福祉のサービス等との関係上、把握しておくべきことを記載しておきます。	

1ページ目の内容は、詳細な個人情報のため、保護者に記載していただくか、聞き取りながら記載します。保護者の希望で記入しない項目があっても構いません。

加筆・修正は、新たなシートに記入するのではなく、このシートに記載していきます。その際、以前の記載事項は二重線を引くなどして残しておきます。記入者・記入日を記入します。

7 様式例

初めて担任する先生方へ

取扱注意

本人の興味・関心のあること、得意なことや好きなことなどは、指導や支援の手がかりとして重要です。

本人の状況	生活実態	最近の本人の様子について　一日の過ごし方について特徴的なこと 家族・友達との関わり　情緒面　等
	興味・関心	学校等での活動（クラブ活動など）　地域での活動への参加の様子 夢中になっていることなど特徴的なこと　等
	その他	性格、行動やコミュニケーションの特徴　等
本人のニーズ		把握が難しい場合は、支援者の観察や本人のつぶやき等から捉えます。保護者の願いと異なる場合もありますが、あくまでも本人の思いや願いを記載します。
保護者のニーズ		卒業後の将来の姿を想像しながら、中・長期的な見通しも記載します。小・中・高等学校等への進学だけではなく、就労等への思いや願いなども記載します。
学校における支援	支援目標	
	主な支援内容	

原案を立てた後、校内委員会等による検討により作成します。

<支援目標>
長期的なスパン（2～3年後）を見据えて設定
<支援内容>
・・・の環境を整える
・・・の場を設定する
・・・が経験できる活動を増やす
・・・に配慮する
※交流及び共同学習も必要があれば記入します。

他の関係機				
家庭生活	地域生活			

<記載内容>
○関わりのある関係機関・連絡先・担当者　等
○主な支援内容・配慮事項　等
※関係機関には、放課後等デイサービスや保育所等訪問支援事業を行う者（指定障害児通所支援事業者等）、保健所等も含まれます。

評価・改善		
年度	年度	年度

年間の取組を振り返り、支援したことによる児童生徒等の変化や、支援に対する評価と改善の要点を記入し、次年度の担任等に確実に引き継ぎます。
3年次には、次の2～3年後を見据えた振り返りを行います。

<次年度の担任等に引き継いだ期日（1年次）>　年　月　日　次年度担任等（　　）
<次年度の担任等に引き継いだ期日（2年次）>　年　月　日　次年度担任等（　　）
<次年度の担任等に引き継いだ期日（3年次）>　年　月　日　次年度担任等（　　）

※ 発達段階や障がいの状態等、個々の実態に応じて項目の追加・修正をしてください。
※ 定期的に評価し、本人の状況や本人・保護者のニーズ、学校・園や関係機関の支援について修正しましょう。

取扱注意

連携の記録（受診・懇談・会議・相談等）

幼児児童生徒氏名（　　）

開催年月日	構成員（機関名）	主な内容
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	
年　月　日	計　名	

受診や懇談、会議、相談等の連携の記録を残し、幼児期から学校卒業後までの一貫した支援に役立てます。

（2）個別の指導計画

①自立活動用

年度 個別の指導計画【自立活動】

児童生徒名	年　組〔　　〕	作成者	

1 児童生徒の実態

（1）障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

（2）（1）の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション

（3）（1）の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、〇年後の姿の観点から整理

2 長期目標（年間の指導目標）

7
様式例

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
（1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	（1）情緒の安定に関すること	（1）他者とのかかわりの基礎に関すること	（1）保有する感覚の活用に関すること	（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること
（2）病気の状態の理解と生活管理に関すること	（2）状況の理解と変化への対応に関すること	（2）他者の意図や感情の理解に関すること	（2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	（2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	（2）言語の受容と表出に関すること
（3）身体各部の状態の理解と養護に関すること	（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	（3）自己の理解と行動の調整に関すること	（3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	（3）日常生活に必要な基本動作に関すること	（3）言語の形成と活用に関すること
（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		（4）集団への参加の基礎に関すること	（4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	（4）身体の移動能力に関すること	（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
（5）健康状態の維持・改善に関すること			（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	（5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること

4 具体的な指導内容（区分と項目・教科等・担当者）

5 短期目標（学期ごとの指導目標）と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標			
評価			

6 年間指導計画

	指導内容	指導場面 指導者	具体的な支援	評価･記録
1学期				
2学期				
3学期				

（解説付き）

年度 個別の指導計画【自立活動】

児童生徒名	年　組〔　　〕	作成者	

1 幼児児童生徒の実態

（1）障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

個々の障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境等の実態を的確に把握します。具体的には、基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境等です。

（2）（1）の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション

（1）で収集した情報を、自立活動の区分の視点で整理することで、障がい名のみに頼って特定の指導内容に偏ることなく、対象となる児童生徒の全体像を捉えることができます。

（3）（1）の情報を、学習上又は生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

次に、（1）で収集した情報を、学習上又は生活上の困難の視点で整理します。その際、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできること等も記載すると、指導や支援のヒントになります。最後に、幼児児童生徒の生活年齢や学校・園で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れ、「○年後の姿」をイメージしたり、卒業・卒園までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定したりして情報を整理します。

2 長期目標（年間の指導目標）

実態把握から明らかになった幼児児童生徒の「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」のうちから、その年度の指導目標の設定に必要な課題に焦点を当て、中心となる課題を選定します。

中心的な課題を踏まえ、課題を解決（改善）するための1年間の長期的な観点に立った指導目標を設定します。

7 様式例

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
（1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	（1）情緒の安定に関すること	（1）他者とのかかわりの基礎に関すること	（1）保有する感覚の活用に関すること	（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること
（2）病気の状態の理解と生活管理に関すること	（2）状況の理解と変化への対応に関すること	（2）他者の意図や感情の理解に関すること	（2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	（2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	（2）言語の受容と表出に関すること
（3）身体各部の状態の理解と養護に関すること	（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	（3）自己の理解と行動の調整に関すること	（3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	（3）日常生活に必要な基本動作に関すること	（3）言語の形成と活用に関すること
（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		（4）集団への参加の基礎に関すること	（4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	（4）身体の移動能力に関すること	（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
（5）健康状態の維持・改善に関すること			（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	（5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること

指導目標が定まったら、それらを達成するために必要な項目を、自立活動の内容の6区分27項目から選定します。

初めて担任する先生方へ

4 具体的な指導内容（区分と項目・教科等・担当者）

選定した項目を関連付け、具体的な指導内容を設定していきます。その際、「指導目標を達成するためには、こんな力が必要である。したがって、区分○○の項目○○と、区分△△の項目△△を関連付けて指導する。」等、前述の課題同士の関連や中心課題を設定したプロセスを振り返りながら検討することが大切です。また、指導場面や指導者を明確にし、計画的・組織的に進めましょう。

5 短期目標（学期ごとの指導目標）と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標	1年間の長期目標を踏まえ、学期ごとの短期目標を定め、自立活動の指導の効果を高めます。その際、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望を捉えておくことが重要です。また、その到達状況の具体的な姿を捉えておくことが重要です。		
評価	指導目標の実現に向けて、児童生徒等がどのように変容しているかを評価します。また、児童生徒等がどのような点でつまずいているかを明確にし、指導の改善につなげます。評価に当たっては、教師間の協力の下で適切な方法を活用して進めるとともに、多面的な判断ができるように、必要に応じて外部の専門家や保護者等と連携を図っていくことも大切です。実態に応じて、自己評価を取り入れ、自己理解や学習への意欲を高めましょう。		

6 年間指導計画

	指導内容	指導場面 指導者	具体的な支援	評価・記録
1学期				
2学期				
3学期				

前ページで設定した1年間の長期目標、年間の指導内容、学期ごとの短期目標を踏まえて具体的な年間の指導計画を立て、組織的・計画的な指導に役立てます。

②通常の学級用

年度 個別の指導計画【学校生活全般】

幼児児童生徒名	年　　組［　　］	担任名	
幼児児童生徒の実態			
本人の願い			
保護者の願い			
長期目標（1年間）			

	短期目標	具体的な支援（担当者）	評価
学習面 生活面 行動面 社会性・対人関係			
支援チーム			

7
様式例

（解説付き）

年度 個別の指導計画

幼児児童生徒名	年　組［　　］	担任名	
幼児児童生徒の実態			
本人の願い			
保護者の願い			
長期目標（1年間）			

<実態把握>具体的内容（例）

基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境　等

<長期目標>支援の柱となるもので、1年後の姿を想定する。

○本人・保護者のニーズが高いもの
○児童生徒等の状態像にあっている課題
○学校生活を円滑に送るために必要なスキル
○二次的な障がいへの対応もしくは予防　等

	短期目標	具体的な支援（担当者）	評価
学習面			
生活面			
行動面			
社会性・対人関係			
支援チーム			

<短期目標>学期終了時や単元終了時の姿を想定する。

長期目標を達成するためのステップであり、今行うことにつながるもの
学習面、生活面、社会性・対人関係の中で優先順位をつけて設定
明確な評価を行うために、「条件（状況）」「行動」「基準」を記述
【例】・「条件（状況）」：ヒントが与えられた時、1対1の声かけで、
5人程度のグループ活動の時に
・「行動」：書くことができる、述べることができる、○で囲むことができる
・「基準」：80%以上、1日に1回、5回に1回、10問中8問

<具体的な支援（担当者）>支援内容を具体的に記入し、担当者も明確にしておく。

【例】（書くことへの支援）
・マス目の大きいワークシートや拡大コピーしたものや使いやすい道具等を準備し、必要に応じて選択できるようにしておく。
・手元に板書内容の重要な箇所を書いたメモを置き、正確に板書をノート等に記録できるようにする。

<評価>達成の程度や有効だった支援、改善点等を具体的に記入する。

<支援チーム>チームを作り、多面的に実態把握や評価を行い、組織的に取り組む。

③特別支援学級用（当該学年・下学年の各教科等）

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	年　　組［　　］	作成者	
実　態		指導上の配慮事項	

月	「単元名」 単元目標	時数	指導内容	具体的な支援	観点別評価			記録
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	

1年間の評価と来年度に向けて
○1年間の評価 知 思 主 ○有効だった指導・支援 ・ ○来年度に向けて ・

7
様式例

（解説付き）

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名		作成者	
実　態	・習得状況、既習事項等 （目標・内容の一部又は全部を下学年に替えている場合は、その概要を明記） ・障がいによる学習上の困難さ、つまずきの傾向 ・当該教科等に関する興味・関心、得意なこと等	指導上の配慮事項	個々の実態を踏まえ、教科等の目標を達成するために必要な配慮事項を記入します。

月	「単元名」 単元目標	時数	指導内容	具体的な支援	観点別評価			記録
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
			個々の実態を踏まえ、適切に指導内容や指導方法、必要な支援を設定します。 また、基礎的・基本的な事項の習得を目指す実態の場合、指導内容を適切に精選しましょう。		3つの観点に基づき、3段階（A・B・C）で評価します。 A B C	A B C	A B C	個々の学習状況やつまずき、効果的だった指導や支援を記録し、以降の単元や他教科の指導等に生かします。
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	
					A B C	A B C	A B C	

1年間の評価と来年度に向けて	
○1年間の評価 知 思 主 ○有効だった指導・支援 ・ ○来年度に向けて ・	○1年間の評価 各単元の観点別評価を踏まえ、1年間の学習状況を評価します。 ○有効だった指導・支援 個々の実態に応じて行った指導・支援の工夫のうち、特に有効だったもの（次年度も継続するもの、教科等横断的な視点でも有効なもの等）を記載します。 ○来年度に向けて 教育課程の改善に向けた事項（指導目標の達成状況、指導内容の設定、時間数、指導形態、指導方法、教材・教具、関係機関との連携等）を記載します。

7
様式例

初めて担任する先生方へ

④知的障がい特別支援学級用（各教科等）

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	年　　組［　　］	作成者	
実　態		指導上の配慮事項	

月	「単元名」 【教科別、日生、生単等】 ・単元目標 ・指導の形態	時数	指導内容	具体的な支援	評価・記録 ㊟…知識・技能 ㊝…思考・判断・表現 ㊤…主体的に学習に取り組む態度
					（評価） ㊟ ㊝ ㊤ （記録） ・
					（評価） ㊟ ㊝ ㊤ （記録） ・
					（評価） ㊟ ㊝ ㊤ （記録） ・
					（評価） ㊟ ㊝ ㊤ （記録） ・

1年間の評価と来年度に向けて
○1年間の評価 ㊟ ㊝ ㊤ ○有効だった指導・支援 ・ ・ ○来年度に向けて ・ ・

7
様式例

【学習グループ名・各教科等を合わせた指導名】年間指導計画

月	「単元名」 ・単元目標 ・合わせた教科等	時数	学習活動	指導・支援の工夫 ・有効だったこと ・改善が必要なこと　等	児童生徒の姿 ・活動への興味・関心や意欲 ・児童生徒の成長、変容 ・今後の課題　等

1年間の評価と来年度に向けて
○児童生徒（成長や変容、課題等） ・ ・ ○指導（成果の大きかった単元や指導・支援の工夫、改善が必要なこと等） ・ ・ ○来年度に向けて（単元、教材・教具、指導体制、時間数等） ・ ・

（解説付き）

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名		作成者	
実　態	・知的障がいの教科の段階 ・習得状況、既習事項等 ・障がいによる学習上の困難さ、つまずきの傾向 ・当該教科等に関する興味・関心、得意なこと等	指導上の配慮事項	個々の実態を踏まえ、教科等の目標を達成するために必要な配慮事項を記入します。

月	「単元名」 【教科別、日生、生単等】 ・単元目標 ・指導の形態	時数	指導内容	具体的な支援	評価・記録 知…知識・技能 思…思考・判断・表現 主…主体的に学習に取り組む態度
(例) 4	(例) 「時刻と時間」 【教科別】 ・時刻の読み方や、簡単な時間の求め方を理解し、日常生活で使うことができる。	(例) 4	(例) ・午前（午後）○時○分と正しく時刻を読む。 ・○分（時間）後、○分（時間）前の時刻が分かる。 ・24時間制の時刻の読み方に慣れる。		（評価）
(例) 4 5	(例) 「修学旅行に行こう」 【生単】 ・友達と協力し、グループ行動の計画を立てることができる。 ・しおりやスケジュール表を活用し、見通しをもって活動できる。 ・旅行を振り返り、自分が体験したことや知り得た情報を伝えることができる。	(例) 4	(例) ・食事や入浴、集合時間に間に合うように、スケジュールの○分前を計算し、○分前行動をする。		
					知 思 主 （記録） ・

各教科等を合わせた指導における当該教科のおおよその時間数を設定します。

各教科等を合わせた指導についても、各教科等の目標に準拠した学習評価が必要です。

そこで、各教科等を合わせた指導で取り扱っている教科の内容についても、教科ごとの個別の指導計画に記載することで、指導の形態に関わらず、当該教科に関して児童生徒が1年間でどのような学びをするのか、全体像を捉えることができます。

また、教科別の指導と各教科等を合わせた指導との関連が図りやすくなり、カリキュラム・マネジメントにも役立ちます。

7
様式例

初めて担任する先生方へ

1年間の評価と来年度に向けて
○1年間の評価 知 思 主 ○有効だった指導・支援 ・ ・ ○来年度に向けて ・ ・

【学習グループ名・各教科等を合わせた指導名】年間指導計画

月	「単元名」 ・単元目標 ・合わせた教科等	時数	学習活動	指導・支援の工夫 ・有効だったこと ・改善が必要なこと　等	児童生徒の姿 ・活動への興味・関心や意欲 ・児童生徒の成長、変容 ・今後の課題　等

各教科等を合わせた指導は、生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、学習や生活の流れに即して学んでいくものです。

単なる「教科等の盛り合わせ料理」ではなく、「教科等が溶け合った料理」のようなものです。

教科ごとの個別の指導計画により、各教科の目標に準拠した計画と評価を進めていく一方で、このような各教科等を合わせた指導のよさを失わないよう留意することが大切です。

そのためにも、教科ごとの個別の指導計画だけでなく、各教科等を合わせた指導の年間指導計画を作成することが望まれます。

1年間の評価と来年度に向けて
○児童生徒（成長や変容、課題等） ・ ・ ○指導（成果の大きかった単元や指導・支援の工夫、改善が必要なこと等） ・ ・ ○来年度に向けて（単元、教材・教具、指導体制、時間数等） ・ ・

⑤知的障がい特別支援学級用（学校生活全般）

年度 個別の指導計画【学校生活全般】

児童生徒名	年　　組［　　］	担任名	

実態把握	Ⅰ概念的スキルについて 1言語発達の状況（言語理解、言語表出能力など） ・ ・ ・ 2学習技能の状況（読字、書字、計算、推論など） ・ ・ ・
	Ⅱ社会的スキルについて 1対人関係（友人関係など） ・ ・ ・ 2社会的行動（社会的ルールの理解、集団行動など） ・ ・ ・
	Ⅲ実用的スキルについて 1日常生活習慣行動（食事、排泄、衣服着脱、清潔行動など） ・ ・ ・ 2ライフスキル（買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など） ・ ・ ・ 3運動機能（協調運動、運動技能、持久力など） ・ ・ ・

目標（1年間）	具体的な指導・支援 （指導場面・担当者）	評価
実態把握を踏まえ、特に学校生活全体で取り組む目標（各教科等の個別の指導計画で取り組むもの以外）を記入		

7
様式例

（解説付き）

年度　個別の指導計画【学校生活全般】

児童生徒名	年　組［　　］	担任名	

実態把握	Ⅰ概念的スキルについて 1言語発達の状況（言語理解、言語表出能力など） ・ ・ ・ 個別の指導計画は自立活動をはじめ、各教科等について作成しますが、特にそれ以外に学校生活全般で取り組むべき実態や状況がある場合のみ、この様式を使用してください。
	Ⅱ社会的スキルについて 1対人関係（友人関係など） ・ ・ ・ 2社会的行動（社会的ルールの理解、集団行動など） ・ ・ ・
	Ⅲ実用的スキルについて 1日常生活習慣行動（食事、排泄、衣服着脱、清潔行動など） ・ ・ ・ 2ライフスキル（買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など） ・ ・ ・ 3運動機能（協調運動、運動技能、持久力など） ・ ・ ・

目標（1年間）	具体的な指導・支援 （指導場面・担当者）	評価
実態把握を踏まえ、特に学校生活全体で取り組む目標（各教科等の個別の指導計画で取り組むもの以外）を記入		

(3) 年間の単元(題材)配当表

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の例)　　(　　年　　組　氏名　　)

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	4月	5月	6月	7月	8･9月	10月
学校行事								
教科別の指導	国語							
	社会							
	数学							
	理科							
	音楽							
	美術							
	保健体育							
	外国語							
	職業･家庭							
	道徳科							
領域別の指導	特別活動							
	自立活動							
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導 (合わせた教科)							
	生活単元学習 (合わせた教科)							
総合的な学習の時間								

7
様式例

参考様式（中学校知的障がい特別支援学級の例）　　（　年　組 氏名　　）

		当該 下学年(〇年) 知的(段階)	11月	12月	1月	2月	3月	教育課程の評価と次年度に向けた改善
学校行事								
教科別の指導	国語							
	社会							
	数学							
	理科							
	音楽							
	美術							
	保健体育							
	外国語							
	職業・家庭							
	道徳科							
領域別の指導	特別活動							
	自立活動							
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導 (合わせた教科)							
	生活単元学習 (合わせた教科)							
総合的な学習の時間								

7
様式例

参考様式（中学校知的障がい特別支援学級の記入例）　　（○年○組　氏名○○　○○）

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	4月	5月	6月	7月	8･9月	10月
学校行事			始業式 入学式	運動会		修学旅行		学校祭
教科別の指導	国語	知的 (中1段階)	・自己紹介 ・国語辞典	・詩を読もう、詩を作ろう	・物語を読もう	・修学旅行の思い出を伝え合おう	・敬語を使って話そう	・敬語を使って話そう
	数学	知的 (中1段階)	・時刻と時間 ・時計を読もう	・カレンダーを使おう	・グラフを使って表そう	・いろいろな順番	・時刻表を読もう	・買いものをしよう ・半額はいくら
	音楽	知的 (中1段階)	・校歌 ・歌声合わせて	・トーンチャイム	・和太鼓「○○囃子」	・和太鼓「○○囃子」	・ボディパーカッション	・ボディパーカッション
	美術	知的 (中1段階)	・レタリング	・鉛筆スケッチ	・陶芸をしよう	・陶芸をしよう	・オリジナルロゴを作ろう	・オリジナルロゴを作ろう
	保健体育	知的 (中1段階)	・集合、整列 ・体ほぐし運動 ・新体力テスト	・リレー ・100m走 ・交流種目	・保健 ・水泳	・水泳	・バスケットボール	・バスケットボール ・性教育
領域別の指導	特別活動		・新入生を迎える会 ・学級目標	・仲間作り ・生徒会選挙	・防災教育 ・交通安全教室 ・高校生の生活	・情報モラル ・1学期のまとめをしよう	・生徒会選挙 ・防災教育 ・学級の成長	・高校生の生活 ・ボランティア活動の意義
	自立活動		・バランスボード　・数と色のマッチング、左右のペアリング ・仲間分け、仲間集め　・気持ちカード、振り返り					
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導 (社、職・家、保)	知的 (中1段階)	・登下校、自立的な通学、公共交通機関のマナーと交通ルール、挨拶 ・身支度、衣服の着脱、健康管理　・排泄（トイレ）　・清潔、手洗い　・係活動、日課・予定 ・体力づくり（ランニング）　・給食、食事のマナー、歯磨き　・休憩（余暇）・掃除					
	生活単元学習 (国、数、社、理、職・家、道、自、特)	知的 (中1段階)	・新入生を歓迎しよう	・運動会を成功させよう	・修学旅行に行こう	・修学旅行に行こう	・学校祭を成功させよう	・学校祭を成功させよう
総合的な学習の時間			・こんにちは、先生（国際理解：アメリカ）	・この町大好き（地域交流：自然）	・この町大好き（地域交流：産業）	・この町大好き（地域交流：文化）	・こんにちは、先生（国際理解：アメリカ）	・この町大好き（地域交流：文化）

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	11月	12月	1月	2月	3月	教育課程の評価と次年度に向けた改善
学校行事			社会体験				卒業式	・教科等の時間数 ・行事等との関連 ・教科等同士の関連 ・地域や家庭との連携 ・交流及び共同学習 ・運用上の留意点 ・効果的だったこと 等
教科別の指導	国語	知的 (中1段階)	・説明書を読もう	・年賀状を書こう	・書き初めをしよう	・新聞を読もう	・感謝の手紙を書こう	
	数学	知的 (中1段階)	・収入と支出	・生活の中のいろいろな図形	・単位に気を付けて計ろう	・予算内で買いものをしよう	・生活の中の分数と少数	
	音楽	知的 (中1段階)	・音の重なりを楽しもう	・音の重なりを楽しもう	・オリジナルソングを創ろう	・スペシャルコンサート	・旅立ちの歌	
	美術	知的 (中1段階)	・オリジナルカレンダー	・オリジナルカレンダー	・版画	・版画	・自画像を描こう	
	保健体育	知的 (中1段階)	・マラソン大会	・器械体操	・保健 ・柔道	・ダンス	・ボッチャ ・風船バレー	
領域別の指導	特別活動		・将来の生き方 ・心と身体の成長	・私たちの財産 ・有意義な生活	・卒業制作 ・高校生に向けて	・卒業制作 ・卒業文集	・卒業を祝う会 ・後輩へメッセージ	
	自立活動		・バランスボード　・数と色のマッチング、左右のペアリング ・仲間分け、仲間集め　・気持ちカード、振り返り					
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導 (社、職・家、保)	知的 (中1段階)	・登下校、自立的な通学、公共交通機関のマナーと交通ルール、挨拶 ・身支度、衣服の着脱、健康管理　・排泄（トイレ）　・清潔、手洗い　・係活動、日課・予定 ・体力づくり（ランニング）　・給食、食事のマナー、歯磨き　・休憩（余暇）・掃除					
	生活単元学習 (国、数、社、理、職・家、道、自、特)	知的 (中1段階)	・収穫祭をしよう	・がんばったね会をしよう	・ハッピーウィンター	・卒業制作を贈ろう	・おもてなしの会を開こう	
総合的な学習の時間			・こんにちは、先生（国際理解：アメリカ）	・私たちの町を紹介しよう（自然、産業）	・私たちの町を紹介しよう（文化）	・交流マップを作ろう（町、アメリカ）	・交流マップを作ろう（町、アメリカ）	

(4) 教科書給与リスト

特別支援学級用　教科書給与リスト(小学校用)

【知的障がい特別支援学校(以下、「知的」)の各教科】

学校名			児童氏名	
学年	教科名	給与する(した)教科書名		
1	生活			
	国語			
	算数			
	音楽			
	図画工作			
	体育			
	道徳科			
2	生活			
	国語			
	算数			
	音楽			
	図画工作			
	体育			
	道徳科			
3	生活			
	国語			
	算数			
	音楽			
	図画工作			
	体育			
	道徳科			
4	生活			
	国語			
	算数			
	音楽			
	図画工作			
	体育			
	道徳科			
5	生活			
	国語			
	算数			
	音楽			
	図画工作			
	体育			
	道徳科			
6	生活			
	国語			
	算数			
	音楽			
	図画工作			
	体育			
	道徳科			

・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
・「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
・一度給与した教科書は再度給与することはできないので注意しましょう。
・知的の「生活」は、3年生では上限2冊まで、4年生から6年生は上限3冊まで給与できます。

特別支援学級用　教科書給与リスト（中学校用）

【知的の各教科】

学校名		生徒氏名	

学年	教科名	給与する（した）教科書名
1	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	（外国語）	
	道徳科	
2	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	（外国語）	
	道徳科	
3	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	（外国語）	
	道徳科	

・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
・「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。

7
様式例

初めて
担任する
先生方へ

特別支援学級用　教科書給与リスト（小学校用）

【当該学年の各教科／当該学年＋下学年の各教科／当該学年＋下学年＋知的の各教科（下学年）】

学校名		児童氏名	

学年	教科・種目名		教育課程	給与する（した）教科書名
1	国語	国語	当	
		書写	当	
		国語	知	
	算数	算数	当	
		算数	知	
	生活	生活	当	
		生活	知	
	音楽	音楽	当	
		音楽	知	
	図画工作	図画工作	当	
		図画工作	知	
	体育	体育	知	
	道徳科	道徳科	当	
		道徳科	知	
2	国語	国語	当 ・ 下	
		書写	当 ・ 下	
		国語	知	
	算数	算数	当 ・ 下	
		算数	知	
	生活	生活	当 ・ 下	
		生活	知	
	音楽	音楽	当 ・ 下	
		音楽	知	
	図画工作	図画工作	当 ・ 下	
		図画工作	知	
	体育	体育	知	
	道徳科	道徳科	当 ・ 下	
		道徳科	知	
3	国語	国語	当 ・ 下	
		書写	当 ・ 下	
		国語	知	
	社会	社会	当 ・ 下	
		地図	当	
	算数	算数	当 ・ 下	
		算数	知	
	理科	理科	当 ・ 下	
	生活	生活	知	
		生活	知	
	音楽	音楽	当 ・ 下	
		音楽	知	
	図画工作	図画工作	当 ・ 下	
		図画工作	知	
	体育	体育	当	
		体育	知	
	道徳科	道徳科	当 ・ 下	
		道徳科	知	

・教科名の列の ［　　］ は小学校の各教科、［　　］ は知的の各教科を表しています。
・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
・「当・下」のように〇で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
・下学年の教科に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

特別支援学級用　教科書給与リスト（小学校用）

【当該学年の各教科／当該学年＋下学年の各教科／当該学年＋下学年＋知的の各教科（上学年）】

学校名				児童氏名	
学年	教科・種目名		教育課程	給与する（した）教科書名	
4	国語	国語	当 ・ 下		
		書写	当 ・ 下		
		国語	知		
	社会	社会	当 ・ 下		
		地図	当 ・ 下		
	算数	算数	当 ・ 下		
		算数	知		
	理科	理科	当 ・ 下		
	生活	生活	知		
		生活	知		
		生活	知		
	音楽	音楽	当 ・ 下		
		音楽	知		
	図画工作	図画工作	当 ・ 下		
		図画工作	知		
	体育	体育	当 ・ 下		
		体育	知		
	道徳科	道徳科	当 ・ 下		
		道徳科	知		
5	国語	国語	当 ・ 下		
		書写	当 ・ 下		
		国語	知		
	社会	社会	当 ・ 下		
		地図	当 ・ 下		
	算数	算数	当 ・ 下		
		算数	知		
	理科	理科	当 ・ 下		
	生活	生活	知		
		生活	知		
		生活	知		
	音楽	音楽	当 ・ 下		
		音楽	知		
	図画工作	図画工作	当 ・ 下		
		図画工作	知		
	家庭	家庭	当		
	体育	体育	当 ・ 下		
		体育	知		
	外国語	外国語	当		
	道徳科	道徳科	当 ・ 下		
		道徳科	知		
6	国語	国語	当 ・ 下		
		書写	当 ・ 下		
		国語	知		
	社会	社会	当 ・ 下		
		地図	当		
	算数	算数	当 ・ 下		
		算数	知		
	理科	理科	当 ・ 下		
	生活	生活	知		
		生活	知		
		生活	知		
	音楽	音楽	当 ・ 下		
		音楽	知		
	図画工作	図画工作	当 ・ 下		
		図画工作	知		
	家庭	家庭	当 ・ 下		
	体育	体育	当 ・ 下		
		体育	知		
	外国語	外国語	当 ・ 下		
	道徳科	道徳科	当 ・ 下		
		道徳科	知		

・教科名の列の ［　　］ は小学校の各教科、［　　］ は知的の各教科を表しています。
・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
・「(当)・下」のように〇で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
・下学年の教科に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

7
様式例

初めて担任する先生方へ

特別支援学級用　教科書給与リスト（中学校用）

【当該学年の各教科／当該学年＋下学年の各教科／当該学年＋下学年＋知的の各教科】

学校名				生徒氏名	
学年	教科・種目名		教育課程	給与する（した）教科書名	
1	国語	国語	当・下		
		書写	当・下		
		国語	知		
	社会	地理	当・下		
		歴史	当・下		
		地図	当・下		
		社会	知		
	数学	数学	当・下		
		数学	知		
	理科	理科	当・下		
		理科	知		
	音楽	音楽	当・下		
		器楽	当		
		音楽	知		
	美術	美術	当・下		
		美術	知		
	保健体育	保健体育	当・下		
		保健体育	知		
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当		
		技術・家庭(家庭分野)	当・下		
	職業・家庭	職業・家庭	知		
	外国語	外国語	当・下		
		(外国語)	知		
	道徳科	道徳科	当・下		
		道徳科	知		
2	国語	国語	当・下		
		書写	当・下		
		国語	知		
	社会	地理	当・下		
		歴史	当・下		
		地図	当・下		
		社会	知		
	数学	数学	当・下		
		数学	知		
	理科	理科	当・下		
		理科	知		
	音楽	音楽	当・下		
		器楽	当・下		
		音楽	知		
	美術	美術	当・下		
		美術	知		
	保健体育	保健体育	当・下		
		保健体育	知		
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下		
		技術・家庭(家庭分野)	当・下		
	職業・家庭	職業・家庭	知		
	外国語	外国語	当・下		
		(外国語)	知		
	道徳科	道徳科	当・下		
		道徳科	知		
3	国語	国語	当・下		
		書写	当・下		
		国語	知		
	社会	地理	当・下		
		歴史	当・下		
		公民	当		
		地図	当・下		
		社会	知		
	数学	数学	当・下		
		数学	知		
	理科	理科	当・下		
		理科	知		
	音楽	音楽	当・下		
		器楽	当・下		
		音楽	知		
	美術	美術	当・下		
		美術	知		
	保健体育	保健体育	当・下		
		保健体育	知		
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下		
		技術・家庭(家庭分野)	当・下		
	職業・家庭	職業・家庭	知		
	外国語	外国語	当・下		
		(外国語)	知		
	道徳科	道徳科	当・下		
		道徳科	知		

・教科名の列の ［　　］ は中学校の各教科、［　　］ は知的の各教科を表しています。

・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。

・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。

・「(当)・下」のように〇で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。

・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。

・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。

・下学年に替える場合、中学校の下学年に替える場合と、小学校の学年に替える場合があります。

・下学年に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

・小学校の学年に替えた場合、「地理・歴史・公民」や「音楽・器楽」は、「社会」や「音楽」となるため、1冊の給与です。